

⑨

五月山公園周辺

文・写真 中川 勝弘(五月山グリーンエコー代表)

阪急電車池田駅から北へ徒歩約15分の五月山公園。山際まで市街地が続き、と言うか、人の暮らしの傍にある、街際の普段着の山だ。取り立てて貴重種がある訳ではないが、キンラン、ギンランやササユリと、里山で見る生き物には大概出会える。森の植生も結構多様で、観察路も多彩、身近な自然を手軽に楽しめる、そんな貴重さがあり、それを残したい。だが、そんな自然を脅かす存在が、シカである。30年前にはいなかったが、近年その数を増やし、その旺盛な食欲で、林床植物が殆ど消え、地肌むき出しのエリアが年々拡大しているのだ。さらに近年のナラ枯れ被害や想定外の大雨、台風、熱波など、気候変動の影響による樹冠の破壊や表土流失、昆虫相の変化と、いつもの自然がどことなく違って来ている。ポッカリ空いた樹冠のギャップには都市由来のナンキンハゼの様な陽樹性樹木が占拠、常緑樹への遷移も盛んで、市民の保全活動では手に余る変化もある。平らな山頂部は墓地開発の波を今も被り続けている。今後30年や如何にか。



猪名川から見た五月山公園緑地
真ん中右手に豪雨で崩れた斜面が見える



山頂部の市民の森を白昼シカの群れ5頭
が駆け抜ける

⑩

豊中市島熊山

文・写真 易 信子(島熊山の雑木林を守る会)

地下鉄千里中央駅から歩いて15分、千里ニュータウン外周に連なる千里緑地・島熊山緑地は今も豊中の里山の生き物達の拠り所になっている。29年前と比べると、防災用ヘリポート基地は住民運動で阻止されたものの、高層マンションや市水道局配水場建設で尾根の片側は失われた。タヌキ・キツネのエサ場面積を補おうと、モウソウチクに侵食された雑木林の回復を目指し、島熊山緑地協議会・島熊山の雑木林を守る会で現在竹の間伐作業を続けている。島熊山と能動的に付き合う地域住民が増えたことは心強い。ただ、周辺道路でのタヌキ・キツネの交通事故は毎秋起こり、「タヌキ横断注意」の看板もあまり効果が見られない。最近ではアライグマやハクビシンなど外来動物の事故死も見られるようになっている。8年前からのナラ枯れや大型台風による倒木で、林内のコナラ・アカマツなどの大木は犠牲になったものの今年もドングリを始め秋の実りは豊かだ。ナンバンギセル・オケラなど豊中では希少な植物も可憐な花をつけている。晴れた日に箕面山、六甲山、遠く生駒山を望みながらこれからも歩きたい山だ。



竹の間伐作業風景(2020年10月24日)



「タヌキ横断注意」の看板(2020年10月24日)